4月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DIは大幅続伸するも　引き続き厳しい状況が続く

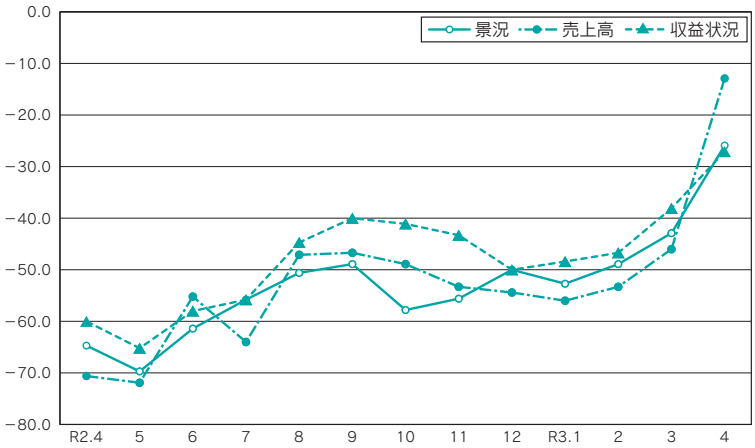
概　況

全業種の主要DIの推移では、「景況」「売上高」「収益状況」の全ての項目で前月より改善が見られるが、初めての緊急事態宣言が出されていた昨年と比べて、未だにマイナス水準にある。

業種別の比較では、製造業は「資金繰り」、非製造業では「取引条件」以外の項目で回復が見られた。

4月の情報連絡員報告によると、製造業では、ワクチン接種の広がりを受けた景気回復への期待感から木材や鉄スクラップ、銑鉄など鋳造資材が高騰し、安定的な外材調達や製品価格への転嫁に苦慮している組合が多い。非製造業は、コロナの影響が一巡し、収益面では前年比回復傾向にあるものの、今後の資金繰りや先行き不透明感に不安を感じているとの声が多く聞かれた。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
業界の景況	△42.9	△25.9	17.0 ↗	△44.0	△29.0	15.0 ↗	△42.1	△24.1	18.0 ↗
売上高	△46.0	△12.9	33.1 ↗	△44.0	△12.9	31.1 ↗	△47.4	△13.0	34.4 ↗
収益状況	△38.1	△27.1	11.0 ↗	△40.0	△22.6	17.4 ↗	△36.8	△29.6	7.2 ↗
販売価格	△9.5	2.4	11.9 ↗	△12.0	0.0	12.0 ↗	△7.9	3.7	11.6 ↗
取引条件	△9.5	△7.1	2.5 ↗	△12.0	0.0	12.0 ↗	△7.9	△11.1	△3.2 ↘
資金繰り	△22.2	△17.6	4.6 ↗	△24.0	△29.0	△5.0 ↘	△21.1	△11.1	9.9 ↗
雇用人員	△19.0	△9.4	9.6 ↗	△20.0	△3.2	16.8 ↗	△18.4	△13.0	5.5 ↗

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・水産加工面ではコロナの影響により消費低迷し、厳しい状況が続いている。沖底漁は４月中旬過ぎまで漁獲量が少なく苦戦した。（水産食料品／網走）
・各店舗、時短営業等の影響で客足がどんどん減少している。昨年よりも大幅に売上が落ち込んだ。（めん類／全道）
・３月単月の出荷量は味噌・醤油ともにまずまずの結果だったが、１～３月の累計は依然として悪い。シカゴ大豆相場の値上がりに止まる気配が見られないことが気がかりである。（味噌・醤油／全道）
・製材、原木市況いずれもカラマツ保合、エゾ・トドマツ強保合。カラマツ原木は合板用が動き出し、エゾ・トドマツ原木も上向いている。製品受注は回復基調にあり、原木の不足感が出ている地域もある。紙原料に大きな動きはない。木質バイオマス原料は順調に集荷されている。外材の高騰により輸入材の入荷が少なくなっており、建築材を取り合う動きが出始めている。今後は外材の入荷が大きな問題となると思われる。（一般製材／全道）
・前年同月比では回復傾向にあるが、２年前との比較ではかなり厳しい売上高・収益状況となっている。（加工紙／全道）
・道南地域では北海道新幹線札幌延伸工事により収益好転している。新幹線トンネル工事による砂の需要増に対して、地域では対応できないことから、留萌支所等と連携し供給している。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・前年同月はコロナで商談が進められず、異常なほどマーケットが低迷し、売上も落ち込んだ。今年度に入っても市場は好転せず、前年同月と同様の状態が続いている。大型物件の見積件数がほとんどなく、今後の見通しについても、スーパーゼネコン、ローカルゼネコンともに新築物件の話がない状況。今後は資材の高騰、運送費の値上げが予想され、各企業、収益面で厳しくなるものと懸念される。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・鋳造資材の高騰が続いている。主に鉄スクラップ、銑鉄、シリコンが高い。製品価格に転嫁しきれていない。（銑鉄鋳物／全道）
・長く続いていた船価下落基調により、受注活動を抑制してきた造船業界だが、３月に入ってから新造船価格が上昇し始めたことで受注活動が活発になり、今後は高価格での受注が期待される。（金属製品／室蘭）
・現時点でコロナ収束の見通しが立たないことから、組合員によっては観光関連業からの受注低迷などの影響を受けており、相変わらず厳しい状況が続いている。（金属機械工作／札幌）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・前年対比の売上は、１年前の緊急事態宣言の影響を大きく受けた企業は多少の持ち直し傾向で増加となったが、コロナ禍以前の売上には戻っていない。一方、１年前に大きな影響を受けなかった企業は経済活動の低迷によりじわじわと減収傾向にある。卸売は扱い品目により好不調の差が大きいが、総体的には現状コロナの影響は深刻ではない。（各種商品／札幌）
・食関連の事業所は苦慮しているが、その他の事業所は現状持ち堪えている。（各種商品／帯広）
・４月期の当組合買付高は仲卸、荷受合計で前月実績より大きく増加した。コロナ変異株の感染拡大で家庭向けの生鮮需要が高まり、購買数の底上げに繋がったものと思われる。一方、飲食関係納品は厳しさを増している。（野菜・果実／札幌）
・コロナ禍による需要減、節約志向の強まりで流通菓子などは依然回復に至らない状況。観光ルートでの取引が多いところは壊滅的な状態で、資金繰りにも厳しさが表れ始めている。（菓子／全道）
・前年比では微増したが、昨年は大幅に売上が減少した時期のため、一昨年と比較すると 92.7％の実績であり、いまだ回復したとは言えない。業種別では衣料品・家電・燃料が前年より増加し、巣ごもり需要以外の売上も徐々に回復の兆しが見られるが、市街地の人通りは少ないままである。（各種商品／旭川）
・４月当初は若い観光客が食堂に来る姿が見られたが、買い物はせず場内を通るだけで、お金を使う世代の観光客は来ない。平日は客足が少ない。月末特売では、広告掲載の商品の売上は順調だったが「ついで買い」がない状況。（各種商品／小樽）
・４月取扱高は前年比 102％だったが、前年の数字はコロナの影響を受けているため良い結果とは言えない。閉店または閉店計画をしている小売店が増えている状況に今後の不安を感じる。（各種商品／苫小牧）
・当組合全体の前年比は 102.1％。食品・スーパー関連は前年比 94.2％、ホームセンター関連は 90.0％だった。その他一般店は 131.0％で、セール実施による売上の伸びが奏功した。昨年同期はコロナによる一般店の閉店などがあり、前年比が低かった。（各種商品／芦別）
・売上高は対前年比 100.6％。大口先の需要で前年実績を維持したものの、全体的には依然として低調な状態にある。（野菜・果実／札幌）
・昨年は非常事態宣言に伴い名物商品の販売中止や特別売り出しを中止したこともあり、今年度は昨年比で入店客数が増加した。インターネット販売の送料を一律にしたところ反響があった。（鮮魚／釧路）
・量販店・スーパーは前年以上の売上だったが、飲食店・ホテル・土産屋は前年の 20 ～ 30％に留まった。コロナの感染拡大から１年以上が経過し、様々な対策を講じているが、商売は厳しいのが現状である。高級な飲食店やホテル向けの魚が売れず、価格が下がっている。（各種食料品／札幌）
・原油価格のコスト増分を随時小売価格に反映させているものの、コロナ禍が長引く中ガソリンは減販を余儀なくされており、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい状況となっている。道内では札幌市を中心に新型コロナ感染者数が増加していることから、企業活動や人流の更なる停滞等によるガソリン販売への影響が懸念される。（燃料／全道）
・LP ガス仕入価格の上昇に伴い、小売販売価格も値上げ傾向にある。（燃料小売業／稚内）
・４月卸値はほぼ横ばいで推移、小売店の販売価格も安値による修正が一部あったものの大勢は横ばい推移の模様。収支状況は従来と同じく量販店の攻勢により厳しい利益口銭に圧縮され、コロナの影響もあり、利益は横ばい状態のようだ。（燃料小売業／旭川）
・コロナの感染拡大が収束せず、消費動向も活発さを欠いている。巣ごもり需要で調理家電を中心に家電製品の売上が増加したが、１年以上巣ごもりが続いているため最近では需要にも鈍化が見られる。（電気機械器具／全道）
・１～３月は大手・中小ともに昨年並みの業績で終わったが、今後コロナの影響が購買行動にどう反映されるか不安要素は多い。業界全体で ICT・スマート農業の推進に取り組んでおり、春需要を前に WEB での展示会の開催等を計画する所も見受けられる。（農業用機械器具／全道）
・中古車の販売台数は昨年同時期よりは多少好転しているが、コロナの長期化により先行きに不安を感じている組合員は多い。就職先として自動車業界は不人気のようで、雇用の確保に苦労している。（中古自動車／札幌）
・大都市圏では昨年度と同様に自転車を買い求める客が増えているが、地方ではそのような現象は見られず、地域格差が大きくなっている。（自転車・自動車／全道）
・地元百貨店の３月売上高は前年同月比 11.3％増の４億 6,491 万円。コロナの感染拡大から１年経過し、影響が一巡したのが要因と思われる。４月共通駐車券の利用は前年同月比 126.5％となったが、コロナ以前（令和元年）同月比では 72.8％。買物共通バス券は前年同月比 87.0％だった。（帯広市／帯広）
・町及び道の宿泊助成事業の相乗効果で集客は前年同時期比で好転している。（旅館／音更）
・今後もコロナの感染拡大が続く場合、利用者数の減少が懸念されるが、現在のところは大きな混乱はない。（公衆浴場／全道）
・2021 年は、変異株等の影響で日本経済にブレーキがかからない限り、製造業を中心に業績回復が見込まれ、デジタル化に取り組む企業が増えることでシステム開発が大幅に伸長すると予測される。そのため、３月以降は一転して技術系人材の採用活動が高次元で活発化している。IT 人材の逼迫は IT 企業に限らず、一般企業でも同様で、IT 業界や競合他社から高賃金を設定して人材を募るなど、DX 業務を担える人材の争奪戦が激化している。道内の中小 IT 企業も即戦力となる中途採用者を重点に採用活動を強化しているが、質の確保や賃金の上昇が採用の難しさに拍車をかけ、思い通りの採用ができない状態が続いている。不足分は派遣会社の利用やシニアの活用、子育て女性の在宅での請負等、非正規社員に頼るしかなく、IT 業界の「売り手市場」状態が 2021 年も過熱しながら続くと思われる。（ソフトウェア／全道）
・国の令和２年度第３次補正予算関連（国土強靱化）による受注増が見られた。（土木建築サービス／旭川）

非製造業（建設・運輸業）

・公共工事の入札物件は年度初めのため少ない。民間工事は大型工事等を始め計画が少しずつ動き出してきているように感じる。建設業は、４～６月くらいの期間は比較的仕事が少ない時期と言われており、この期間中いかに労働力を遊ばせる時間を少なくしていくのかが最終的な業績に大きく影響する。業者間で情報共有を行い、互いに支援しあえる関係を作っておくことも必要と感じている。（電気工事／全道）
・市の新年度事業費は昨年比ほぼ同程度で、今月には市内の量水器交換工事が発注され、翌月以降も発注が続く。（管工事／名寄）
・昨年同月比でコロナの影響は減少し、反対に PCR 検体配送、宅配業務の増加などプラスの要因が出ている。（一般貨物自動車運送／全道）
・全般的に貨物量が減少しているため、標準運賃はあるものの、値下がりしている。小口・宅配部門の貨物量は増加している。（一般貨物自動車運送／小樽）
・一部農産品は他県での作柄の影響で例年同程度の荷動きまで回復したが、昨年収穫された道内産の在庫が残り少なくなるため５月以降は期待できない。域内輸送については、引っ越し関係が前年比で増加しているが、コロナ以前の水準には戻っていない。原油価格が高値で推移しており、現状では運賃への転嫁が難しく、収益面も悪化している。（一般貨物自動車運送／石狩）